

神戸から多発性付着部炎を考察する

阿部整形外科リウマチ科クリニック

阿部修治

私は神戸市東灘区にある六甲アイランドで無床診療所を開設しております。この地域では神戸大学附属病院、神鋼記念病院、神戸海星病院、神戸市立中央市民病院、甲南病院と開業医で構成される東神戸リウマチ性疾患連携の会があり、年に2回集まって症例検討会や講演会を開催しています。リウマチ内科、整形外科の先生だけではなく、皮膚科医、眼科医にも参加していただいて脊椎関節炎(Spondyloarthritis; SpA)の知見を出来るだけ共有できるように工夫をしてきました。神戸大学にはブドウ膜炎の診療に関してリーダー的存在である眼科の楠原仙太郎先生、乾癬の診療に関しては国内のオピニオンリーダー的存在である錦織千佳子先生がいらっしゃるの、この会で講演をお願いしてまいりました。皮膚科、眼科の先生方の SpA 及び腱付着部炎(enthesis)に対する認識は高いように感じますし、実際、些細な関節腫脹や腱付着部(enthesis)に症状がある患者さんを皮膚科や眼科の先生から紹介いただくこともあります。私もこの東神戸リウマチ性疾患連携会の世話人の一人として微力ながら、いろいろな科の間で診療や知見を共有できるような連携システムを構築していきたいと思います。

私の診療所のまわりには2つの国際学校があり、また外国人居住用の家具付き賃貸住居が数多くあるため(阪神タイガーズの外国人選手たち、ビッセル神戸のスペイン、ドイツから来た有名選手も六甲アイランドに住んでいます)、多くの外国人が来院されます。そのため、英語診療は不可欠であり、私は西宮医師会の有志の先生方といっしょに米国人から毎月1回、英語のレッスンを受けています。つまり、奮闘しながら英語診療に真正面から取り組んでいます。

そういうわけで多くの外国人の診療をしていると、西洋人であれ、東南アジアの人であれ、中東の人であれ、腱付着部炎(enthesisopathy, あるいは enthesitis : 以下は enthesitis とします)が日本人より色濃く発現される例が多いということに驚きます。それは SpA として分類されるような症例のみならず、通常の日常生活動作でアキレス腱付着部炎、上腕骨外側上顆炎や足底筋膜炎が出現しやすく、症状の程度も自覚的にも他覚的にも強いというのが私の実感です。問診から判断して enthesitis にストレスを与え続けてきた動作は特にないような場合でも、強い症状が継続する場合があります。enthesis で起きている生体の反応が日本人と少しちがうのでしょうか?何か内因性のものであると感じることがあります。一方、日本人は比較的 enthesitis を起こしにくく、また発症しても軽症例が多いということを実感します(ただし、私はスポーツ選手を診療する機会がほとんどないので、激しい外的ストレスに暴露されるスポーツ選手の enthesitis において、上記の私の印象があてはまるかどうか

は判断できません)。ただこのように一般の人では軽症例が比較的多いことが、日本での enthesitis、あるいは包括的な疾患群としての SpA が、欧米と比較して十分に認識されてこなかった理由のひとつではないでしょうか。生体内には多くの enthesis があり、患者さん一人一人の enthesis を注意深く見守っていきたいと思います。

このように enthesis, enthesitis に留意して診療しつつも、何か捉えどころのなさに悩んでいました。そのころに偶然、*Journal of Rheumatology* に心がひきつけられる論文に出会いました。Sound of Music という不朽の映画がありますが、イタリアの Walter Grassi 先生が、Sound of Music をもじって Sound of Enthesis という editorial review の論文を書いておられました(*J Rheumatol* 37: 1986-8, 2010)。「体表近くに存在する上下肢の enthesis の「sound」を高周波プローブで「聴く」と美しい音楽のようであり、今後もっと多くの知見が得られる可能性がある。」という内容でした。運動器疾患の超音波 musculoskeletal ultrasound は、ヨーロッパのリウマチ医がパイオニアで欧州で普及していることは知っていましたが、日常診療で enthesis を診る機会が多い私にとって、この Sound of Enthesis の論文は、超音波を用いた診療に進む大きなきっかけになりました。そうするとどうしても本家本元のヨーロッパで、超音波を用いた診療を実際に見てみたい という強烈な願望が芽生えました。超音波装置(HITACHI AVIUS, 5-18mHz のリニアプローブ)を購入し、EULAR の ultrasound group が出版したテキストブック *Musculoskeletal Ultrasound in Rheumatology* を読みながら超音波診療を開始する一方、EULAR US コース (4日間の日程で朝から晩までみっちりあります) を 2012 年、2015 年、2018 年にそれぞれ初級、中級、上級コースを受講してきました。毎回、私にとってたいへん楽しく有意義なセミナーで、多くの先生や仲間に出会うことができました。上級コースの最終日に、実際の患者さんに超音波検査をする資格テストがあり、無事合格して、EULAR の超音波認定医になりました。6年がかりで何とか修了したわけですが、学んだ理論と技術は今後の enthesitis の診療に役立てていけるようにがんばりたいと思います。

添付写真： 「EULAR 超音波セミナーをいっしょに受講したスペインの先生方と (2018年6月、アムステルダムにて)」